

上峰の商業施設跡地再開発事業 新SUNと保育施設が協定

連携協定を結んだ果実工房新SUNの中島
新太郎社長（左）と、ひよ子こども園かみ
みねの池松英治園長（上峰町役場）



上峰町の大型商業施設の跡地で進められている再開発事業で、整備が予定されている産地直売所の運営を担うフルーツ専門店「果実工房 新SUN」（佐賀市）と、同じ施設で認定こども園を運営する社会福祉法人「ガジユマル」（上峰町）が11日、連携協定を結んだ。保育施設は日常的に援助が必要な「医療的ケア児」も受け入れる予定で、その保護者の就労を産地直売所が支援する。

総菜店、バーベキュー施設など13店舗が入居を予定しており、認定こども園はこの施設の2階に整備される。医療的ケア児を育てる保護者にとつて就労は多くの困難を伴うことから、1階の店舗で安心して働ける環境を整える。雇用数は未定。こども園で使用する給食の野菜の仕入れなども連携を図るとしている。

協定式で新SUNの中島新太郎社長は「多くの人が上峰町に住みたいと思えるような施設にしたい」とあいさつ。保育施設の整備を

進める上峰町のひよ子こども園かみみねの池松英治園長は「医療的ケア児とその家族をしっかりとサポートし、地域との交流が活発な開かれた園になれば」と期

待した。

再開発事業は、民間からの資金調達や町のふるさと納税を財源に、商業施設や定住促進住宅、公園などを整備する。（井手一希）

